

Innovation for Cool Earth Forum (ICEF)



第2回 年次総会

開催日 2015年**10月7日**(水)～**8日**(木)

*夕食会(ネットワーキングプラザ)：10月6日(火)

会場 **ホテル椿山荘東京**



2000年代は1850年以降で最も気温の高い期間であり、温暖化は人為的影響による可能性が極めて高い。IPCCでの最新の報告は、このように結論づけています。気候変動問題は、遠い将来の問題ではなく、今日、地球に住む人類が直面する課題となっています。

2007年、私は日本国総理として、2050年までに世界の温室効果ガス排出量を50%削減することを提案しました。この大きな目標を実現する鍵は、イノベーションです。そのためには、世界中で最も先進的な知見を共有し、各国政府、産業界、アカデミアの力を結集することが欠かせません。

こうした考えの下、「エネルギー・環境技術版ダボス会議」とも言える会議の創設を提唱しました。これは、世界トップクラスの政策担当者、ビジネスパーソン、研究者が、それぞれの垣根を越えて気候変動問題解決のイノベーションを促進する、過去に例を見ない取組です。

気候変動問題という人類に課せられた課題を克服し、地球の未来を創造していく世界のリーダーの皆様に、東京でお会いできることを楽しみにしております。

内閣総理大臣

安倍晋三





気候変動問題という、人類史上最も重要で、かつ、最も困難なミッションの一つを解決するには、これまでの社会システムを変革するイノベーションが必要です。

イノベーションという言葉は初めて用いたシュンペーターは、イノベーションの担い手を「アントレプレナー」（「企業者」）と呼びました。

この「企業者」は企業経営者のみを指すものではありません。政府、企業、学界等、気候変動問題に関わる全ての人々が、変革を担う「企業者」として行動することが必要です。

「Innovation for Cool Earth Forum」は、こうした「企業者」がそれぞれの知見を共有し、新たな行動につなげていくためのプラットフォームとなることを目的に、安倍総理の提案によって設立されました。

今年のICEF年次会議は、COP21につながる非常に重要な会議です。現代の「企業者」の皆様とお会いし、人類の未来を切り開く取組について活発に議論される場に立ち会えることを楽しみにしております。

経済産業大臣

宮沢 洋一



地球温暖化は国際社会の喫緊の課題です。全世界規模で経済成長や貧困撲滅と両立した形で温暖化対策を早急に進めることが重要であり、その鍵はイノベーションです。

国際的な低炭素社会の実現に向けて、官民が連携して常に技術革新を進めながら長期にわたり実効性のある対策をとらなければなりません。

日本は、攻めの地球温暖化外交戦略「ACE: Actions for Cool Earth」を推進しています。「Innovation for Cool Earth Forum」は、気候変動対策に貢献する優れた低炭素技術の革新と普及の一層の促進を図るものであり、ACEの一角をなす重要な会合です。

技術革新の分野で主導的役割を担う皆様、先進的な知見を共有し、活発な議論を行うことを期待いたします。

外務大臣

岸田 文雄



気候変動はまさに「今そこにある危機」です。IPCC第5次評価報告書は、現状のまま温室効果ガスの排出が続いた場合には、温暖化によって世界中の人々や生態系に深刻な影響が生じると予測しています。こうした気候変動による影響を緩和するための行動を遅らせることは、将来の対策の選択肢を狭めることになります。

気候変動の国際交渉は今年のCOP21（パリ）に向け、まさに正念場です。2020年以降の新たな国際枠組の中で、世界全体での削減の鍵となるのがイノベーションです。

今そこにある危機をイノベーションのチャンスと捉え、将来にわたって大幅な温室効果ガス排出削減を確実にするための再生可能エネルギーの大幅な普及、省エネルギーの徹底、低炭素技術の世界への普及など、具体的な行動を強化することにより、経済成長にもつなげていくことが必要です。

世界の英知が結集する「Innovation for Cool Earth Forum」は、こうした環境と経済の好循環、すなわちグリーン経済成長を実現する上で非常に意義の深い会合です。

技術の革新・普及による気候変動対策への貢献について、実りのある議論を期待します。

環境大臣

望月 義夫

ICEFの概要

2013年、安倍総理大臣は、新たな国際会議として、我が国が Innovation for Cool Earth Forum (ICEF) を毎年主催することを発表しました。

本会議は、エネルギー・環境分野のイノベーションにより気候変動問題の解決を図るため、世界の学界・産業界・政府関係者間の議論と協力を促進するための国際的なプラットフォームとなることを目的とするものです。

ICEFは、毎年のフォーラムの開催と、ウェブ上での年間を通じた議論を組み合わせてることにより、イノ

ベーションの促進を加速させていきます。また、国際的な中立性を確保するため、各国の有識者からなる運営委員会を設置しています。

世界各国から出席を得るため、毎年京都で開催される「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム (Science and Technology in Society forum (STS フォーラム))」と連続した日程とし、毎年10月に開催いたします。

*STSフォーラム年次総会2015は、10月4日～6日に京都で開催されます。
STSフォーラム会場からICEF会場までの移動時間は約3時間半です。

プログラム

*10月6日(火) 20:00～21:30 ICEF夕食会(ネットワーキングプラザ)

1日目 / 10月7日(水)	2日目 / 10月8日(木)
9:00 9:00-9:30 開会式	9:00-11:30 分科会② 人工光合成／風力／蓄電／スマートグリッド／ゼロ・エネルギー・ビル／低炭素モビリティ／気候変動対策におけるビジネスエンゲージメント／公的ファンディングのRD&Dにおける役割
9:30-11:50 本会議① — 将来の温室効果ガス削減に向けた主要課題 —	昼食 (ネットワーキング)
12:00 昼食 (ネットワーキング)	12:45-15:15 分科会③ 先進的液体バイオ燃料／太陽光／二酸化炭素回収・貯留技術／国連を補完する国際枠組み
13:10-15:45 本会議② — イノベーター・ビジョナリー・グローバルリーダーによる将来展望 —	コーヒーブレイク(ネットワーキング)
16:00 コーヒーブレイク(ネットワーキング)	15:45-18:15 本会議③ — 気候変動問題に対する将来戦略 —
16:15-18:45 分科会① 地熱発電／水素／原子力／セメント／鉄鋼／エネルギーシステム／途上国への技術移転と投資促進	18:15-18:45 閉会式
19:00-21:00 夕食会 (オフィシャルディナー)	19:00-21:00 夕食会 (フェアウェルディナー)

9月2日現在

運営委員



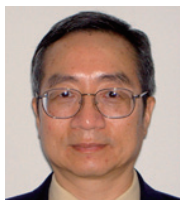
茅 陽一 (委員長)

地球環境産業技術研究機構 (RITE) 理事長



サリー・ベンソン

スタンフォード大学教授



周 大地

中国国家発展改革委員会エネルギー研究所 前所長



オグンラデ・デビッドソン

元気候変動に関する政府間パネル (IPCC)
第三作業部会共同議長

元シエラレオネエネルギー・水資源大臣



ジョージ・エルドマン

ベルリン工科大学教授



ホセ・マリア・フィゲーレス

元コスタリカ大統領



アダム・ヘラー

テキサス大学リサーチプロフェッサー



川口 順子

明治大学国際総合研究所特任教授

元外務大臣

元環境大臣



ホーセン・リー

IPCC 副議長

高麗大学大学院教授



ネボイシア・ナキチェノヴィッチ

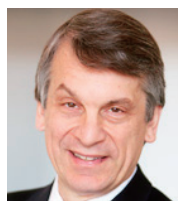
国際応用システム分析研究所副所長



グウィディアン・プリンス

ロンドン経済大学名誉教授

ハートウェルグループ共同議長



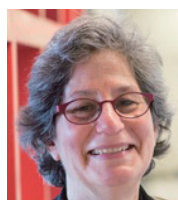
デービッド・サンダロー

元米国エネルギー省 (DOE) 次官



イスマイル・セラゲルディン

アレキサンドリア図書館長



スーザン・ソロモン

マサチューセッツ工科大学教授

IPCC 第一作業部会共同議長



ローレンス・トゥビアナ

パリ政治学院教授

フランス開発庁理事会理事長

持続可能開発・国際関係研究所所長



安井 至

製品評価技術基盤機構 (NITE) 名誉顧問

東京大学 名誉教授

参加者

各国の政府・産業界・学界等、招待制(参加費無料)

主催

経済産業省

国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)

共催

外務省、環境省

公式ホームページ

<http://www.icef-forum.org>

お問い合わせ

【ICEF事務局】

E-mail: icef-reg@congre.co.jp

会場

ホテル椿山荘東京

■ JR

JR 目白駅改札前の横断歩道を渡り、左手のバス停 5 番乗場「目白駅前」より都バス新宿西口行き、または右手側の 8 番乗場「川村学園前」よりホテル椿山荘東京行き、新宿西口行きにて「ホテル椿山荘東京前」下車。／所要時間約 10 分

【料金】 大人 210 円 (IC : 206 円)

乗り場<地図①> 「目白駅前」
白 61 系統新宿西口行き・ホテル椿山荘東京前下車

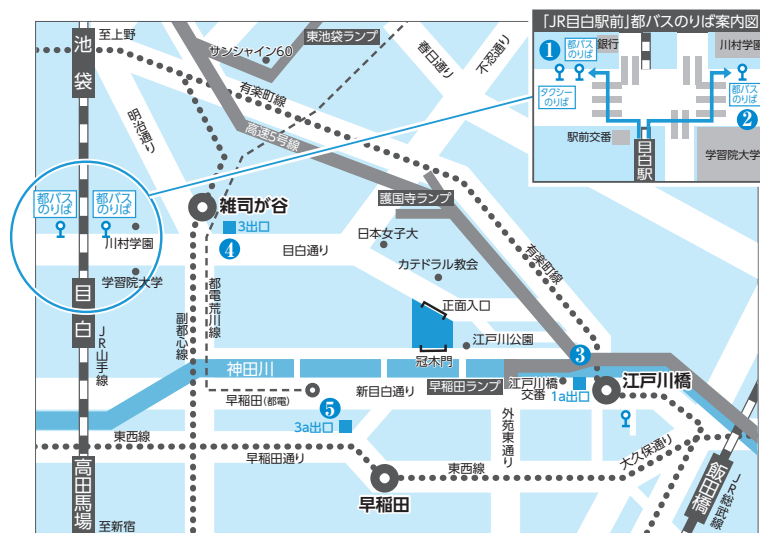
乗り場<地図②> 「川村学園前」
白 61 系統新宿西口行き・ホテル椿山荘東京前下車
白 61 系統ホテル椿山荘東京行き・終点下車

【運転間隔の目安】

<地図①> 「目白駅前」からは平日・土休日ともに 10 ～ 15 分間隔で運転

<地図②> 「川村学園前」からは 5 番乗場の運転間隔に加え、「ホテル椿山荘東京行き」が土休日の 12 時台から 16 時台までは 1 時間に 5 ～ 6 本、17 時台から 20 時台は 1 時間に 4 本運行されています。

※詳しくは東京都交通局のホームページをご参照ください。



*冠木門の開門時間は10:00～21:30です(季節により異なります)。

■ 東京メトロ

<地図③> 東京メトロ有楽町線「江戸川橋」駅 1a 出口より徒歩約 10 分

<地図④> 東京メトロ副都心線「雑司が谷」駅 3 出口より徒歩約 15 分

<地図⑤> 東京メトロ東西線「早稲田」駅 3a 出口より徒歩約 20 分

主催



経済産業省

共催



外務省



環境省